

「思いは一つ、実践は百花繚乱」を望む

梅の花が咲き始め、やがて桜のシーズン。そして山梨では桃の季節が到来します。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

先日、「塾長例会」で、多くの十四期生諸君とお会いすることができました。それにしても、時間の経過と共に、参加者の顔ぶれが固定化して、「来る人は来る。来ない人は来ない」傾向があることに気付きました。「来ない人達」には、来ることができないだけのやむを得ない事情があることでしょう。

欠かさず参加する人達に敬意を表する

むしろ私が感心するのは、欠かさず出席する人達です。毎回の例会に決まって参加する人達は、大いに称賛していいと思えました。欠席しなければならない人達は忙しく、参加している人達は時間の余裕があるからでしょうか。私は、そのように思えません。いつも参加している人達も、本当は欠席している人達と同様、あるいはそれ以上に忙しいだろうと思います。それでも、『夢甲斐塾』に入った限りは、万障繰り合わせて参加しようとするから、いつも参加しているのだろうと思います。

昨今、権利を主張し、義務を果たすことを怠る傾向にはないでしょうか。憲法一つとっても、戦前の憲法は、国民の義務を強く規定し、戦後の憲法は、国民の権利を強く規定しています。もちろん、権利は大切にされるべきです。しかし、一方において、「義務を果たす」ことが必要ではないでしょうか。「面白くないから」、「意味がないから」などと言う人もいるかもしれません。しかし、『夢甲斐塾』に入った限りは、『夢甲斐塾』をより良くする義務を担っていることも自覚してほしいと思います。

「山梨ブランド」探しも、ようやく先が見えてきた

今回の例会では、「山梨ブランド」の発表がありました。「そもそも、「山梨ブランド」とは何か？」などと議論するよりも、それぞれが具体的に、自らが調べてきた「山梨ブランド」を発表したことは、大変有意義でした。ようやく、暗中模索の霧が晴れ、先が見えてきた気がしました。

その時、話しました。「塾生諸君が、様々な持ち場において、自らがこだわるテーマを追い求めて実践している姿は、様々に違っていてもいいのです。あるいは、違った方がいいとも言えます。しかし、違っていけないのは、その先にある目的です。端的に言えば、「思いは一つ」、そして実践は多種多様であることが、私の望む姿です。その思いとは何か。「自分一身の利益を求めめるのではなく、いつもみんなのために力を尽くせる人になる」こと。その一点だけは、すべての『夢甲斐塾』塾生諸君は同じでなければならないのです。それを、世間では、「同志」と呼びます。研修期間は、「同志」になるための時間を指していると考えてください。